

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105235		
法人名	(株)アイリーフ		
事業所名	アイリーフ当新田		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	平成 28 年 3 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105235-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成28年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今期は「気配り・目配り・心配り」をテーマとしたスタッフスローガンを作成しました。5つのスローガンのもと、入居者様やご家族、そして地域の方々に関わり合いにされる施設づくりを目指しています。入居者様には、ご本人やご家族に聞き取りを行い、一人一人のニーズを明確にし、個別のケアを心掛けています。台所仕事や畑仕事などの役割を持っていただくことで、生き生きとした生活が送れるようにサポートしています。地域交流では、以前から引き続いて地域の行事(町内や子供会のお祭り、廃品回収、ふれあいサロン等)にも積極的に参加しており、年々交流の機会が増えてきています。最近では地域の方が毎週ボランティアとして来てくださるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この地域に必要なとされる事業所を目指し開設して13年目となるグループホーム「アイリーフ当新田」は、利用者の皆さんと和気藹々の日々を送る一方、この間20名程の愛しい人を看取り、辛く悲しい想いを乗り越えてきた。家族はこのホームで最期のステージを安らかに送らせてもらった事に感謝の意を伝えているが、ホーム開設当時は思いもかけなかった役割を担う事態となっている。しかし今日のホームのリビングは利用者や職員の、また、利用者同士の楽しいおしゃべりと笑い声があちこちに響き渡っている。どのような場面でも職員の声かけがある。活気が満ち溢れる源は、多分みんなが思った事を遠慮せずに言い合える雰囲気があるからだろう。さらに近所のボランティアの方が話をしに来てくれたり将棋のお相手をしに来てくれる。近くの芳明小学校の子供達と親密な交流が続いている。地域の中で笑顔で、ホームでは気ままに振る舞える暮らしは、認知症を患う人の心を和らぎ広げてあげているに違いない。心が縮こまる場面を極力少なくしようと頑張っているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・施設理念は、ホールに掲示されており常に見える位置にある。また、以前からあったプロの10カ条を考え直し、スタッフスローガンとして内容を変化させた。スタッフスローガンを個人目標と連動させて毎日実践している。	スローガンを掲載した携帯用の「クレドカード」を作成し、毎朝読み合わせる事で、職員に意識付けをしている。毎年参加している改善コンクールでは「業務改善して利用者個別支援の時間をつくる」をテーマに取り組み、職員の意欲向上につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや公民館のサロンなどへ積極的に参加しており、近所のスーパーへの作品掲示も継続している。地域の人への挨拶なども徹底しており、最近では近所の方から頼られる場面もみられるようになった。	入浴時の福祉用具の相談を近所の人から受けて、ホームで発注した事もあれば、夏祭りへの参加がきっかけで将棋のボランティアにきてくれる近所の人もある。子供会の祭りに参加したり、散歩の途中で地域の人に挨拶して利用者の顔を覚えてもらい、地域とのつながりを深めていっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい会(運営推進会議)の中で、勉強会など実施し地域の人へ理解や支援の方法を深めていっている。また、利用者との散歩やイベント参加時に地域の方とふれあっていただき、理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	終活セミナー、救急講習などの興味を持っていただけるイベントを行い、参加者を集め近況報告やご意見を頂いている。ご意見は、サービス向上のため職員間で共有してサービス向上につなげている。	ふれあい会(運営推進会議)の場で地域との交流を増やし、ホームの運営やケアについてもオープンにして話し合う機会にしている。市民局生活安全課より講師を招いて「悪徳商法」の講座を設け勉強したりしている。行政、地域の人、家族、利用者等毎回多くの参加者と一緒に有意義な会を展開している。	「家族会」や「地域とのふれあい会(各種講座)」等も含めた会として多角的な取り組みに加えて参加者の意見交換も出来ている。もう少し形を整え記録も確実に残していけば、さらに充実した会になるだろう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に事業所の状況報告を行ったり、ふれあい会(運営推進会議)を開催時に連絡を行い協力関係を築けるように努めている。	ふれあい会に市の担当者の参加があるので、日頃からホームの活動には理解と協力が得られており、困難事例等を含め、何かあればその都度、相談し助言や指導をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、職員全体で周知徹底に努めている。また、身体拘束を行わないように利用者に合ったケアに取り組み身体拘束を行わないようにしている。	玄関の施錠はなく出入り自由であるが、外に出る時は職員と一緒に付き添い散歩等をして気分転換をもらっている。最近では利用者が外に出る事例はなく全体的に落ち着いている。身体拘束・言葉の抑止等の研修をして、拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行っている。職員全体で、身体的なことだけではなく、言葉による虐待を行わないようにカンファレンスなどで話し合を行って、ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員では無いが、権利擁護について学んでいる職員もいる。成年後見人制度を利用している利用者もおり、関係者と話し合いを行い活用するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族に事業所のケアに対する方針、利用料金、リスクについて話し合いを行って理解に努めている。また随時、ご家族からは不安や疑問を伺う姿勢を持っている。改定時には、しっかり説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、利用者やご家族が意見を言いやすいように雰囲気作りや聞き取りを行っている。また、家族会、ふれあい会(運営推進会議)ケアプラン更新時の面談時など話し合いの場を設けている。頂いた意見は、運営に反映できるように努めている。	年2回家族会を開催し、師走の時期は大掃除が恒例になっている。「ご家族様満足アンケートの回答の、はいといいえの間に1~2項目あると助かる」という意見があった。次回に活かせるように話し合っている。毎月のお便り通信では近況報告、行事案内等の他に「今月の一枚」の欄に利用者の写真と言葉が掲載され、心温まる便利になっている。	家族への個別の便りやアンケート・家族会や年末大掃除の行事等、家族との交流は前向きに着々と進んでいる。この方向性を失う事なくさらに発展させ、ホームと家族・本人との絆を深めていって欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回合同カンファレンスを行い意見や提案を行える機会を作っている。また、随時意見を出せるような雰囲気は出来ている。出た意見や提案は運営に反映していている。	会社の方針で職員のスキルアップには特に力を入れており、2ヶ月ごとに個人目標の評価をし、トップの人には会社から嬉しいご褒美も用意しており、職員のやる気を引き出し励みにもなっている。3月中旬には職員と社長との面談があり、意見・要望を直接言える機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、年間目標を作成し、それに向かい努力している。また、2か月ごとに個人目標を作成しておりその結果を職員が投票してMVPを決めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を随時提供しており、自主的に行きたいもの、事業所からの指示で参加するもの、研修の選択肢がきちんとある。内部研修も行っておりスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会で、他のグループホームに行き現場を見せて頂いたり、情報交換を行っている。また、年間一回改善コンクールを行い、参加施設のサービス改善取り組みを見てサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から困っていること希望はもちろん、生活歴、趣味なども聞き安心して過ごせるように努めている。サービス導入段階後も利用者、ご家族のお話を聞き良い関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや困っていることを傾聴し、理解に努めより良い関係作りを行っている。また、話しやすい雰囲気や場面作りも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のご様子や要望、家族の意見などから情報収集を行い、必要なサービスを見極める努力を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の”出きる事””したい事”の見極めを行い、お互いに協力して支え合っている。また、利用者の”出来ること”を発見できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回のご家族への手紙やイベントに参加していただき利用者のご生活の様子を知ってもらうように努めている。また、衣替えや大掃除では利用者のご家族の共同作業が見られ、全員での支え合いが見られる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の日々の会話から、思い出の場所や人の情報を集め、ご家族の協力も得ながら関係が切れないように支援するよう努めている。	月1回、従妹が墓参りに連れて行ってくれる人もいれば、友人や近所の方が面会に来てくれる人、庭が気になる人は職員と自宅までドライブ等、日頃から馴染みの人や場との関係を支援している。終末期には何日も家族の泊まりがあり、心ゆくまで一緒に過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の様子や職員の情報などをふまえ、フロアーの枠に縛られず、会話やレクリエーションを通して孤立しないで過ごせるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、行事への参加の声掛けや、1周忌の際には手紙を送り相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別のケアカンファレンスや家族の面談、日々の利用者の気持ちを書き留めて、ご本人の意思や希望を把握し、希望を実現できるように努めている。	自宅が気になる人と一緒にその人の自宅まで行って写真に残したり、ラーメンが好きな人と外食に出かける等、思いを叶えてあげる取り組みをしている。「今できることを出来るうちに」と利用者の為に何かしようという職員の姿勢はこのホームの伝統でもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族との会話の中で情報を集め生活把握に努めている。また、深いお話が出来るように関係性の向上にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が、利用者の変化を申し送りノート、介護記録に記録して情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の普段の生活から思いや希望を聞きだし、その情報を中心に利用者・家族・職員で面談を行っている。そして、現状にそった介護計画を作成している。	介護記録にはプランに対する実施評価を毎日ABCの3段階で評価し、定期的にモニタリングをしている。ケアプランカンファレンスで本人・家族のニーズや意見・要望を基にして、次回ケアプランの方向性について職員間で話し合い、「心のケア」を重視したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス、申し送りノート、介護記録に利用者の変化を記入して職員間で情報共有を行っている。また、介護サービス計画実施評価を行い、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援など、利用者やご家族の要望に対し、必要な支援を出来る限り行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや取り組みなどの社会資源の情報収集を行っている。そして、情報を活かし利用者が興味のあることや出来る事には、参加して生活に広がりが出るように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、利用者・ご家族の意見を重視して、適切な医療を受けれるよう支援している。また、随時ご家族の疑問にも答えられるようにしており、かかりつけ医の変更にも対応している。	大半の人はホームの協力医がかかりつけ医であり、従来のかかりつけ医の人も2名いる。月2回の往診があり気軽に相談しやすい協力体制があるので安心できる。週3回の訪問看護で日頃から健康管理をし、月2回訪問歯科での口腔ケアをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化には、訪問看護ノートや電話連絡で報告を行っている。異常が発生した場合は、24時間対応で電話連絡を行い、適切な看護を受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、出来る限り面会へ行き病院関係者から情報収集を行い、利用者の現状把握に努めている。また、退院時にすみやかに生活の再開が出来るよう職員の情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、入居時や家族会、運営推進会議などで、本人・ご家族・地域の方にお話を行っている。また、終末期が近づいたら、ご家族・医療関係者・職員で話し合いを行い、利用者が安心できるよう連携を取ってチームで支援を行っている。	この1年間で4名の利用者の最期を看取ったが、相次いで亡くなった夫婦は最期まで仲良くあり、職員の支援の有り方に家族も満足してくれた。亡くなった後も家族とのつながりを大切にしている。家族会で「看取りについて」スライドで事例紹介をし、「アイリーフ当新田に来て良かった」と本人・家族に思ってもらえるように、今後も出来る限りの支援に取り組んでいこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED・心臓マッサージなどの研修や勉強会を随時行っている。今後、実践力を身に付けていく事が課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員会を設けて、年2回避難訓練も行っている。内容も、火災・地震や昼・夜等、パターンを多く設けて全職員が対応できるように努めている。食料や水などの備蓄も行っている。	日中・夜間想定避難訓練を行い、2階から階段を使った避難方法では布タンカを使用した訓練を実施した。地震発生時の対策等も考えている。昨年作った利用者個人の「災害時緊急連絡カード」をより活用しやすいように改良して、事務所に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や情報を職員で共有して、人格を尊重した親しみやすい声掛けを心掛けている。	個人の写真を外部には出さないでホーム内のみでの展示にする。ホームページには掲載しない等、個人情報保護には特に気をつけている。昨年からは接遇委員会を新たに設置し、職員の身だしなみチェックや言葉遣い等にも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、思いや希望を言える関係や雰囲気作りを行っている。また、利用者が自己決定できるよう選択肢のある声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望や希望を聞き、利用者各個人のペースを大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が利用者の好みを把握し、身だしなみや洋服を出来る限り自分で決めてもらっている。その人らしいオシャレが大切にできるように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや皿洗い、食器の片づけ等、利用者の力に応じた役割を持ってもらっている。また、月一回のお楽しみ昼食や誕生日会では、利用者の希望を反映させた食事を用意して楽しんでもらっている。	「お楽しみ昼食会」ではホームのガレージで鉄板焼き(焼き肉)をしたり、誕生会では「たまにはすき焼きが食べたいなあ」という希望に添って「すき焼き」をして楽しんでいる。今日の昼食も利用者と職員と一緒に会話しながら楽しそうに食べているいつもの光景を目にした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調を配慮して食事形態や量を調整している。また、水分は危険なく充分確保できるよう、声掛けや水分の取り方の工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の力に応じた口腔ケアを行っている。また、歯科より指導を頂いたり定期的なチェックを行って、支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄時間を考えトイレで排泄できるよう誘導を行ったり、自尊心に配慮した声掛けを行っている。排泄量などを調べ利用者に合ったパットを職員で考え使用量を減らすことに努めている。	「布パンツ対応にしよう」というのがこのホームの方針であり、家族の負担を考え費用を削減する工夫として、出来る限り紙パンツやパットを減らし、失禁対策を模索しながら、リハビリパンツはしないで布パンツを優先しようと職員は頑張っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、腹部マッサージなど利用者の個々の体調を配慮した対策を行っている。どうしても解消できない場合は、医師・看護師との連携を行い薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、基本週3回の入浴を行っている。その中で、利用者の希望などがあれば柔軟に時間や曜日の変更を行っている。また、気持ちよく入浴を行えるよう季節により温度や入浴剤などを使用して支援を行っている。	殆どの人が職員とマンツーマンでの入浴だが、心臓疾患がある人は全身清拭で対応し、重度の人は二人介助をしている。更衣拒否・入浴拒否の人もいるが職員の上手い誘導で、湯船に入ってしまうと気持ちいいと喜んでくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の気分・体調を配慮して自由に休んでもらっている。また、昼夜逆転しないよう時間や居室の温度や湿度にも快適に過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の既往歴を理解し、薬の作用について看護師からの説明を申し送りノートや受診ノートを使い情報共有を行っている。また、配薬のミスがなくす為、職員によるダブルチェックや、一包づつ声確認を行って配薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や生活歴を把握して、外食や塗り絵、はり絵、畑仕事など個々の個性を生かせる楽しみを提供している。1F・2F合同で行うレクリエーションなど全体で楽しむ支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、買い物や外食に出かけるように努めている。ご家族にも協力していただき墓参りや帰宅などの支援も行っている。	外出支援に積極的に取り組み、家族にも協力をお願いして秋の遠足には全員で行く事が出来、希望者を募って遠出の外出もしている。運動メニューの目標を達成したら外出・外食できるというユニークな個別外出支援もある。ドライブや買い物にもよく出掛け、散歩は日課になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金の管理を行う事が難しいため、施設にて管理を行っている。外出時などに本人希望の物があれば、一緒に買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じ、電話や手紙でのやり取りを行えるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、季節感を感じる壁紙の作成や週一回は新鮮な花を活けて、五感に訴えかける居心地良い空間づくりに努めている。	リビングには行事の時の利用者の笑顔いっぱいの大きな写真や習字、塗り絵等の作品が展示しており、日頃の楽しい活動が伝わってくる。1階ユニットにはデイサービスの利用者もいて、お互いに好きな場所で思い思いにパズルをしたりテレビを見て過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが、好きな場所で好きなように過ごせたり、気の合った人と楽しく話をして過ごせるような空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時やご家族の来訪時などにお話をして、使い慣れたものや写真等を用意していただき、本人が居心地良く過ごせるように努めている。	人形制作が趣味だった人の部屋には自慢の紙人形が飾られ、男性演歌歌手の大きなポスターを何枚も貼っている人、孫からの手紙や絵を展示して人もいて、自分が安らげる空間作りをしている。それぞれの居室に家族色が溢れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の”出来る事”や”わかること”を見極めて、分かりやすい表示や使いやすい工夫を行い混乱しないように努めている。		